

## 6. 補論——ノキアの日本市場への進出と早期撤退（2006～2008年）

【補足資料 a：ノキアの日本進出】 ノキア・ジャパンは [2006年] 6月7日、報道関係者向けの説明会を実施し、同社のエンタープライズソリューション分野への取り組みや、企業向け端末「Nokia E60」や「Nokia E61」の説明を行った。

続いて日本市場については、ノキア・ジャパン エンタープライズ・ソリューションズ事業部 カントリージェネラルマネージャー 森本昌夫氏が説明した。「現在、日本ではコンシューマ系の端末がメインで、企業向けにきちんと要件を満たした端末は少ないのではないかと判断し、Eシリーズではこの要件を満たした」と述べた。

出典：「モバイル機器でも日本市場のリーダーになりたい～ノキア」『アットマーク・アイティ』2006年6月8日、<<http://www.atmarkit.co.jp/news/200606/08/nokia.html>>, accessed 17 April 2008.

【補足資料 b：NTTドコモとノキア】 ノキア・ジャパンは [2006年4月] 3日、NTTドコモのFOMA端末「NM850iG」の製品発表会を開催した。同社代表取締役社長のタイラー・マクギー氏から、端末の概要が説明されたほか、日本市場に対する姿勢が語られた。

2006年1月1日にノキア・ジャパン新社長へ就任したマクギー氏は、これまでのノキアの成り立ち、携帯電話事業への取り組みを紹介。2005年には、世界市場に向けて2億6,500万台出荷し、世界シェア33%を占めるトップメーカーであることをアピールした。

NM850iGについて同氏は「今回、ドコモ向けに端末を提供できるのは非常に嬉しいこと。海外でもそのまま、通話やiモードが利用できる端末で、音楽再生機能やパソコンとの連携など多彩な性能を持っている。ユーザーインターフェイスでも、日本語入力の変換はスマートで、レスポンスも良い」とした。

出典：「ノキア・ジャパン新社長 日本でのブランド確立に注力」『ケータイ Watch』2006年4月3日、<[http://k-tai.impress.co.jp/cda/article/news\\_toppage/28537.html](http://k-tai.impress.co.jp/cda/article/news_toppage/28537.html)>, accessed 17 April 2008.

【補足資料 c：ソフトバンクとノキア】 ソフトバンクモバイルは [2008年] 1月28日、ソフトバンク 3G 携帯電話の新製品「X02NK/Nokia N95」（ノキア製）を発表した。海外では「Nokia N95」の品名でノキアが販売しているスライド型のスマートフォンで、カールツァイスレンズを採用した5メガピクセルカメラや、充実したメディアプレイヤー機能が特徴。発売時期は4月下旬以降。

Symbian OSをベースとしたノキアのソフトウェアプラットフォーム「S60」を採用したスマートフォンで、「Nokia Nseries」の最上位モデルにあたる。スライド部が上下2方向に動く「デュアルスライドデザイン」が特徴で、ディスプレイ部を一方にスライドさせるとその下からテンキーが現れ、反対方向にスライドさせると再生や停止といったメディアプレイヤー用のキーが現れる。音声出力端子には携帯オーディオ機器で一般的な3.5mmステレオミニジャックを採用し、好みのヘッドフォンをそのまま使用できるほか、この端子に付属のビデオ出力ケーブルを接続して、画面をテレビなどに表示させることもできる。出典：「ソフトバンク、mixi対応のノキア最上級スマートフォン「X02NK/Nokia N95」」『マイナビ・ニュース』2008年1月30日、<<http://news.mynavi.jp/news/2008/01/30/007/>> (accessed: January 31, 2008).

【補足資料 d：ノキアの日本撤退と市場の特性】 世界最大の携帯電話製造業者であるノキアは、2008年11月27日、日本にある研究開発部門を大幅に縮小し、日本での携帯端末販売から撤退すると発表した。

「新機能の追加＝端末の進化」であった時代は、日本の携帯電話は世界の最先端を走っており、ノキアとしても調査対象としての魅力があった。ところが、ハードウェアの新機能追加ペースが鈍化する一方、ソフトウェアやサービスが重要となるにつれ、日本市場に最適化し過ぎていた日本の携帯電話は参考にする事ができず、日本の開発拠点としての魅力も減ることとなった。<sup>1)</sup>

---

<sup>1)</sup> 「ノキア日本撤退を振り返る」2010年3月25日、<<http://ascii.jp/elem/000/000/507/507900/>>, accessed October 4, 2010.